

実践例 「学習指導の深化・充実」

「課題6 主体性を育てる学習指導過程の改善・充実」

I. 学校名 蘭越町立昆布小学校

II. 研究の概要

1 地域及び学校の状況

○蘭越町市街地から東に約7km、国道5号線、JR函館本線、道々豊浦ニセコ線、昆布停車場ニセコ線、などが伸び交通の要衝地に位置し、基幹産業は農業である。児童数の減少傾向が続いているが町営温泉施設、総合病院、パークゴルフ場などがあり、地域活性化に一筋の光明を与えている。現在、4学級36名の児童が在籍。明るく明朗、仲良く助け合い協力して何ごともあり遂げようとする子が多い。

2 研究主題 主体的に学ぶ子どもの育成を目指して

～能動的な学びを実現する指導の工夫 算数科を通して～

3 主題について

平成26年度まで算数科を重点にした研究を進めてきた。その中で、操作・体験的活動を通じた授業展開の工夫や個の学びを分かち合える交流の場について実践を重ね、それらが子どもの学びにおいて大変効果的であることをあらためて確認することができた。そして、学習の効果的な流れや高め合う集団としての交流の目的と方法、学習リーダーを中心とした、主体的な学習など一定の成果を得ることができた。一方で、発達段階に応じた交流の方法や、個の学びから全体への学びへのスムーズな移行におけるリーダーの役割等の課題も出てきた。

そこで、新たに研究課題を設定するにあたり、これまで育った力をさらに伸ばすとともに、「生きる力」に繋がっていく「主体的に学ぶ力」の定着を目指し、教育活動を展開しようと考えた。児童が自ら考え、判断し、主体的に学ぶ姿とは、何よりも授業の中で育つと考える。課題の意味をとらえ、解決に向けて見通しを持ち、自分自身の知識や経験をもとに考え、交流を通し他者の考えを取り入れながら深めていく。そこには受け身ではなく、能動的に授業に取り組む児童の姿が不可欠である。課題提示や指示、学習リーダーを中心とした自学の時間を工夫し、児童一人ひとりが安心して課題に取り組める適切な学習環境を用意することで主体的な学びが実現すると考える。

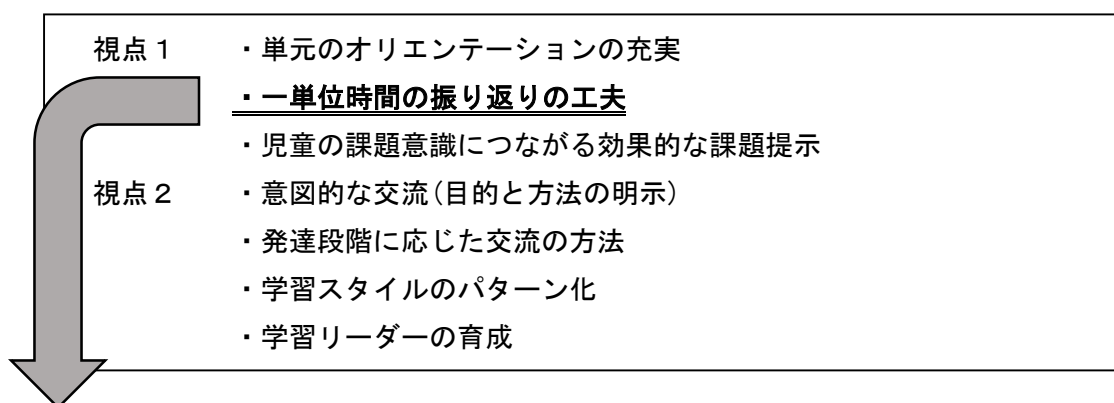
4 めざす子ども像

「自ら考え、判断できる子 自分の考えを深め豊かに表現できる子」

5 研究の仮設

- (1) 単元計画をおさえ、児童が見通しと振り返る場面を設定することで、課題意識を持った主体的な学びが実現するであろう。
- (2) 自学と交流のバランスのよい学習リズムの確立により、わかる楽しさ、できる喜びを伴った能動的な学びが実現できるであろう。

6 研究内容 (主なもの)



視点1 一単位時間の振り返りの工夫について

- ア. 既習事項をもとに方法を考え交流する。
- イ. 具体物や半具体物を使って考える。
- ウ. 簡単な数字に置き換えたり、図を使って表すことで答えを予測する
※「どのくらいで」という時間を意識させる指導も大切

①振り返る目的

振り返ることで、自分の取組の評価に繋げることができる。つまり、振り返ることは「わかったか」「わからなかったか」を問うものだけではなく、学習への意欲を客観的にとらえることにもなる。学習の振り返りの時間に、45分の活動が色鮮やかに頭の中に浮かび上がる。そのような子どもが育つ授業を構築していく。児童の振り返りの結果は児童の取組を評価するだけでなく、授業を構築した教師の評価にもなる。

②何を振り返るのか

発達段階によっては異なるものではあるが、振り返りの視点を以下にあげる。

③

【振り返りの視点】

- ・がんばったか(興味・関心・意欲)
- ・学習内容を理解できたか(課題は何? まとめはどう?)
- ・自分なりの考えを持つことができたか(自力解決に対する自己評価)
- ・友達の考えはどうだったか(他者との比較、自力解決への客観的な見解)
- ・どんな時に活用できそうか。

うやって振り返るのか

- ・限られた時間の中でどう効果的に振り返るか、本校では系統的に取り組めるよう各

【振り返りの基本パターン】

- ・一人で振り返る ～ ノート、ワークシート使用
- ・友達と振り返る ～ 交流
- ・学級で振り返る ～ 交流

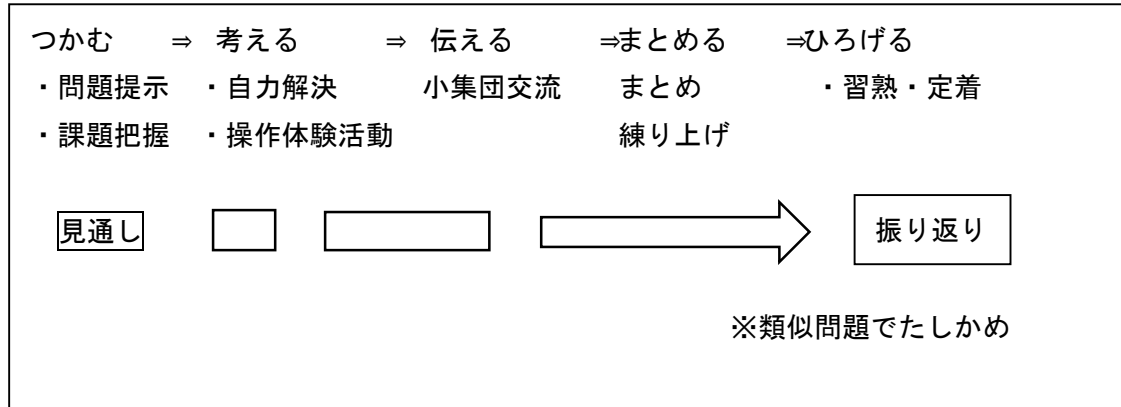
目標を設定し、効果的な取組になるようにしている。



【各学年における振り返りの力】

	低学年	中学年	高学年
一人で	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートやワークシートなどに学習後の感想を書くことができる。 ・学習内容を理解できたか、簡単に書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何がわかり、どこがわからなかったかノートやワークシートに書くことができる。 ・学習のまとめとそのときの自分の考えの相違点に気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと友達の考えの相違点に気づき、自分の取組を客観的に評価できる。
みんな	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをノートを見ながら友達に話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容とそのときの自分の考えを思い出し交流できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容とそのまとめについて自分の取組状況と照らし合わせながら友達と交流できる。

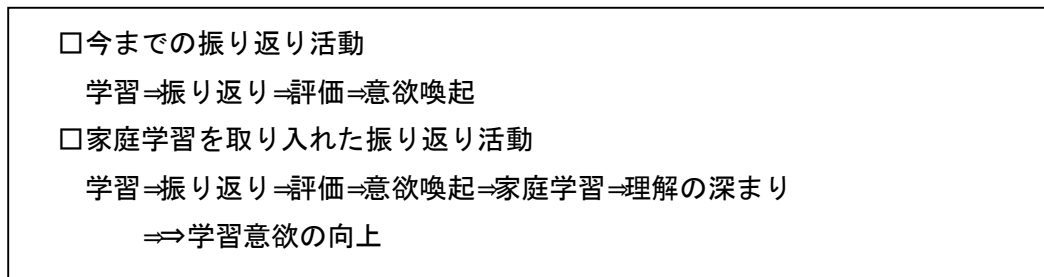
④いつ振り返るか



⑤振り返りを自学に生かす

振り返りの視点に「家庭学習で復習したいこと」という項目を入れる。児童に復習

と



探究の機会を与

えることで、家庭学習に主体性を持たせることが可能である。

(3) 成果と課題 (○…成果 ●…課題)

○学習のはじめに少人数の児童間で前時の振り返りをさせたことで、学習内容の定着につながった。また、本時の問題との相違点から児童が自ら課題をつかむことにつながった。

●振り返りのタイミング、目的の整理・充実が必要

●学習のまとめから振り返り、練習問題までの時間確保